

第61回神奈川県看護賞受賞者名簿

*各項目とも令和8年4月1日現在
(職種・五十音順、敬称略)

	区分	氏名	所属 (所在地)	功績等
1	保健師	しぶや ちづる 渋谷 ちづる	秦野市こども健康部こども家庭支援課 (秦野市)	秦野市における乳幼児から高齢者までの保健事業に従事し、地域住民や関係機関から高い信頼を得るほか、後輩保健師の育成に尽力している。 特定健康診査・特定保健指導の立ち上げに携わり、市民の健康増進に貢献した。 また、母子保健の立場で子育て世代包括支援センターの設置に携わり、児童福祉部門とも連携し、妊娠期から子育てまでの切れ目のない支援体制の構築に努めた。
2	保健師	よしとみ まゆみ 吉富 真由美	厚木市健康こどもみらい部こども家庭センター (厚木市)	厚木市の療育のあり方について研究を重ね提言書をまとめることに尽力し、5歳児健康診査モデル事業の実施、母子健康包括支援センターの設置等に携わった。 また、介護保険制度の準備段階から業務に従事し、円滑な運用となるよう推進するとともに、障害者の自立支援のため障害程度区分の認定についても中心的な役割を担い、市の保健衛生の向上に貢献した。
3	助産師	もりうち ゆきみ 森内 幸美	助産師 森内 幸美 (出張専門) (横浜市)	病院で周産期医療に従事後、横浜市の母子訪問指導員として、長年にわたり母子の健康教育に尽力した。開業後は助産師として、産後の母乳育児相談や妊産婦の電話相談を積極的に行い、母親たちに寄り添った支援を行った。 行政や地域の子育て支援施設等と連携しながら、助産師の専門性を活かした母子やその家族への支援に取り組んだほか、県助産師会理事としても自治体からの受託業務に従事し、助産師の発展・向上に向けて活躍した。
4	看護師	いのうえ ふみこ 井上 ふみ子	医療法人若葉会 柿生記念病院 (川崎市)	聖マリアンナ医科大学病院時代から地域の医療連携推進に携わり、その知見を活かして、川崎市立多摩病院に異動となって以降は、多摩地区周辺地域の訪問看護ステーションや診療所等、医療関係機関連携を主導的に推進し、病院の拠点機能発揮に尽力した。 川崎市看護協会や川崎市病院看護部長会の役員としても活動し、看護サービスの安定的確保や看護のネットワークの充実に貢献した。
5	看護師	おざわ みき 小澤 美紀	医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 (秦野市)	大学病院での勤務経験を経て、鶴巻温泉病院で看護部長として、職員とともに質の高い看護の実現と組織の発展に尽力した。神奈川県看護協会における研修会の企画・運営に参画するとともに、県内において、感染管理認定看護師教育課程における教育に携わり研修の企画・運営を行い、感染対策のための活動に貢献した。

		区分	氏名	所属（所在地）
		功績等		
6		看護師	しまだ たまみ 島田 珠美	医療法人誠医会 川崎大師訪問看護ステーション (川崎市)
		大学付属病院退職後、重度障害児を含む多くの訪問看護に携わり、訪問看護ステーションの開設や多機能型療養通所介護の開設に尽力した。また、訪問看護ステーションの管理者として、医療的ケア児の支援について普及に務めるとともに、診療看護師（ナース・プラクティショナー）や特定行為研修で専門的知識・技術を習得し、スタッフの育成や教育制度全体の推進に貢献した。		
7		看護師	すずき くみこ 鈴木 久美子	一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院 (藤沢市)
		公立大学法人横浜市立大学附属病院に在勤中、救急関連の学会で、評議員や医療政策委員を長年務め、「看護師による救急外来トリアージの実態」を調査し、診療報酬にトリアージナースを加算要件に含めるための活動に尽力し、救急看護の発展に努めた。近年では、病院の看護管理者として人材育成や働きやすい職場環境の整備に取り組み、組織全体の看護の質向上と持続可能な体制づくりに力を尽くした。		
8		看護師	すなだ まなみ 砂田 麻奈美	医療法人社団総生会 麻生総合病院 (川崎市)
		神奈川県に採用されて以来、臨床や看護教育、看護行政を経験し、豊富な経験と卓越した識見をもって、円滑な運営に尽力した。県立病院の副院長兼看護管理者を歴任し、病院経営の状況及び医療をめぐる情勢を十分に把握しながら業務を遂行した。県立病院を定年退職後は、麻生総合病院において業務改善・人材育成に努めている。		
9		看護師	たにぐち ようこ 谷口 陽子	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会湘南平塚病院 (平塚市)
		長きにわたり、大学病院において勤務し、急性期患者の看護や看護部の副部長として部署のマネジメントに尽力した。看護専門学校との実習受け入れ調整を行うほか、看護大学・専門学校での授業講師も務め、基礎教育において教育活動にも力を入れた。大学病院を退職後は地域の中核となる病院で看護部長として従事し、より一層在宅への復帰を目指した医療を進めている。		
10		看護師	とだ のりこ 戸田 法子	公益社団法人神奈川県看護協会 神奈川県ナースセンター (横浜市)
		長きにわたり、県内看護専門学校において看護基礎教育に従事した。授業・実習指導に携わり多くの看護師を育成した。神奈川県看護協会横浜南支部の広報担当としても活動し、「看護の日」のイベント運営など支部活動に貢献した。看護専門学校退職後は、県ナースセンター所長として従事し、ハローワークとの連携や復職支援の研修業務に携わり、看護師の復職支援に精励した。		